



特別活動を要とした学力向上推進研究について

稲佐小学校は、令和4年度、5年度の2か年に渡り、長崎市教育委員会「学力向上推進研究（特別活動）」の研究指定校となっています。これは特別活動を要とした主体的・対話的で深い学びの研究を通して、確かな学力の向上を図るとともに、本校の学校教育目標であるたくましく未来を切り拓く子どもを育成していくものです。

そこで、本校では昨年度から学級活動の話合い活動に焦点を当て、学級活動で身につけた話合いの力が他教科でも活用されるように特別活動と各教科の往還の学びについての研究を進めています。

その成果は10月27日に研究発表会を開催し、長崎市内の先生方に見ていただくことになっています。現在、研究のさらなる進化を目指して実践を続けていますが、今年度の方向性と課題についてご指導をいただくために、長崎市教委中間指導が6月7日に行われました。今回は、全校を代表して6年1組が学級活動の研究授業を行いました。ここでは、一人一人の個性を生かし、お互いのことをもっと知ることができる集会について話合いが行われました。本時では、お互いの考えの良さを取り入れた話合いができるように、友達の見解を否定するのではなく、「心配」という言葉を用いながら、その心配事に条件をつけることでみんなが納得できる考えへ変え、合意形成を図ることを目指しました。今まで自分たちで作り上げてきた合意形成の仕方（右下の写真）を用いる姿がとても印象に残りました。また、役割分担を決める際にクロムブックを活用する新たな取組も提案されました（真ん中の写真）。このように今子どもたちは試行錯誤しながらも自分たちの課題を自分たちの力で解決する方法を学んでいます。

学力向上のためには、互いに支え合い認め合える学級作りが必要不可欠です。また、各学年の発達段階に応じた地道な話合い活動の積み重ねが、やがて大きな力になっていくと考えます。今後もたくましく自分たちの未来を切り拓くことができる子どもたちの育成を目指して実践を続けてまいります。

今年度初めての縦割り遊びを行いました

6月13日（火）に今年度初めての縦割り遊びが行われました。この活動は1年生から6年生までの異年齢の子どもたちが10班に分かれ、月に一度運動場や体育館（雨天時は各教室）で遊ぶものです。今回は6年生を中心に室内で遊ぶ内容を考え実践しました。

「はないちもんめ」や「ハンカチ落とし」など各班の計画にそってみんなが楽しく遊ぶ姿に、稲佐小の良き伝統が引き継がれていることを感じました。縦割り活動は、子どもたち同士の豊かなつながりを作ることができる貴重な時間です。これからも6年生を中心に充実を図っていきます。



熱中症予防のために



暑さを避ける!

- 扇風機やエアコンで温度をこまめに調節
- 日光カーテン、すだれ、打ち水を利用
- 外出時には日傘や帽子を着用
- 天気の良い日は日陰の利用、こまめな休憩
- 吸湿性・速乾性のある通気性のよい衣服を着用
- 保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす

「熱中症警戒アラート」発表時には、外出をなるべく控え、暑さを避けましょう

こまめに水分を補給する!

- 室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じていなくてもこまめに水分・塩分などを補給

熱中症予防のための情報・資料サイト

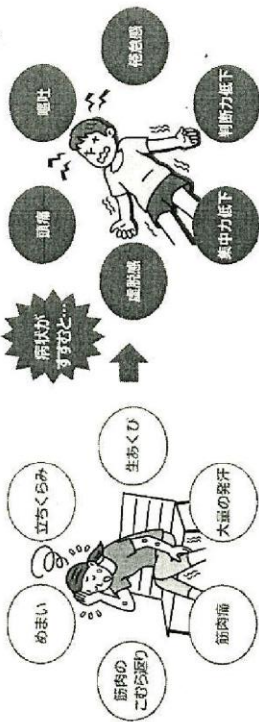
熱中症予防のための情報・資料

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou/inquiry/kenkou/teishyu/teishyu_taisaku/

「熱中症」は、高温多湿な環境に長時間に居ること、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外だけでなく室内でも何もしないままでも発症し、緊急搬送されたり、場合によっては死亡することもあります。

熱中症について正しい知識を身につけ、体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

熱中症の症状



⚠ 応急処置をしても症状が改善されない場合は医療機関を受診しましょう

熱中症が疑われる人を見つけたら(主な応急処置)

- エアコンが効いている 室内や風通しのよい日陰 など涼しい場所へ避難
- 衣服をゆるめ、からだを冷やす (首の周り、脇の下、足の付け根など)
- 水分・塩分、経口補水液などを補給

※氷に直接とぶつかるものは避けましょう



自力で水が飲めない、応答がおかしい時は、**119** ためらわずに救急車を呼びましょう!

ご注意

- 暑さの感じ方は、人によって異なります**
 その日の体調や暑さに対する耐れなどが影響します。体調の変化に気をつけましょう。
- 高齢者や子ども、障がいをお持ちの方は、特に注意が必要!**
 熱中症発症のおよそ半数は65歳以上の高齢者です。高齢者は暑さや水分不足に対する感覚機能が低下しており、暑さに対するからだの調節機能が低下しているため、注意が必要です。また、子どもは体温調節能力がまだ十分に発達していないので気を配る必要があります。

こまめに水分補給

厚生労働省

Ministry of Health, Labour and Welfare